様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２７ 日現在

機関番号：１４４０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ０２６１８

研究課題名（和文）職業的資質を育成するドイツ職業学校における国語科（ドイツ語科）の調査的研究

研究課題名（英文）Study on the vocational competency-oriented language education in German vocational school

研究代表者
土山　和久（Tsuchiyama, Kazuhisa）

大阪教育大学・教育学部・教授

研究者番号：００２７３８２１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ドイツ連邦共和国ノルトライン・ヴェストファーレン州における職業学校の国語（ドイツ語/コミュニケーション）教育の実態を、①教育制度の特質、②教育カリキュラムの特質、③国語科（ドイツ語）教育の位置づけ、④教科書教材の特質、⑤授業実践の視察、⑥我が国への示唆という観点から、複合的・立体的に調査・解明することを目的とするものである。
目的の①～④については、各種の学会発表および学術論文の形でまとめることができ、一定の成果を上げたように思われるが、新型コロナウイルスの影響で目的⑤⑥の成果を十分にまとめることができなかったことが、反省点として挙げられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究を通して、複雑な職業学校機構とそれに位置づく様々な学校種およびそれに伴う多種多様な教育カリキュラムを見せるドイツ・職業学校にあって、職業場面に寄り添った言語コミュニケーションと職業生活に資する教材特性並びに授業実践の実像に迫ることができた。このことは、資質・能力の育成が求められる我が国において、教養から実践力への転換に舵を切る、言葉に係る社会的実践力の基底を今一度とらえなおす示唆を与えるものであるように思われるし、また、職業教育やキャリヤ教育におけるカリキュラム並びに学習の在り方を考究する際の重要なモデルとなるように思われる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to investigate and clarify the state of national language (German/communication) education in vocational schools in the state of North Rhine-Westphalia, Federal Republic of Germany, in a comprehensive and three-dimensional manner from the following perspectives: 1) characteristics of the education system, 2) characteristics of the educational curriculum, 3) the positioning of national language (German) education, 4) characteristics of textbook teaching materials, 5) observation of classroom practices, and 6) suggestions for Japan.
Objectives ① to ④ were achieved through presentations at various academic conferences and academic papers, and it appears that a certain degree of success has been achieved. However, due to the impact of COVID-19, it was not possible to fully summarize the results of objectives ⑤ and ⑥, which is something that needs to be improved upon.

研究分野：国語教育学

キーワード：ドイツ語教育　ドイツ職業学校　コミュニケーション教育　比較国語教育学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

わが国では、単線型の教育制度のもと、普通教育の枠組みの中で国語科教育が営まれているため、中等教育段階において、職業教育を強く意識した国語科教育が構想・実践されてこなかった。その一方で、職業的な人材育成の場においては、コミュニケーション能力やチームの中で働くための資質等の社会的実践力が求められてきている。

本研究では、伝統的に後期中等教育段階において特徴的な職業教育を営んでいるドイツをモデルに、その職業教育における国語科教育の特質を、教育制度における位置づけおよび理念、カリキュラム・学習領域構造、教科書教材、具体的な授業実践の観点から分析し、職業という実の場に即した、社会的実践能力を重視する国語科教育のありようを考究する。

わが国では、後期中等教育段階が単線型の教育制度をとっているため、国語科教育の目標や内容が普通教育・教養教育に寄っていて、社会的実践力としてのコトバの力やコミュニケーション能力を十全に育成しているとは言いがたい。また、このことに関連して、新しい学習指導要領では、教科の学習をより強く学習者の生活に結びつけるような、資質・能力の育成が求められている。すなわち、教養志向的な国語科教育から社会実践的な国語教育への転換が求められているのである。

一方、ドイツ連邦共和国では、わが国の高等学校に相当する後期中等教育段階において、デュアルシステムという特色のある職業教育を行ってきている。そこでは、それぞれの職業分野に沿った教育カリキュラムが設定され、これもまたそれぞれの職業場面に応じた専門や教科の学習が求められている。すなわち、育成の目的に密接に呼応する教育が営まれているのである。そこで、本研究では、特に人口最多の州であるノルトライン・ヴェストファーレン州における職業学校の国語科教育（ドイツ語科教育）を研究調査の対象とし、段階的に以下の点を解明・考究することを目的とした。

２．研究の目的

本研究では、当初より基本的に以下の５つの目的を設定した。

①職業学校の制度と役割と結びついた国語科教育の理念の解明
②職業教育を標榜する国語科カリキュラムの解明
③教科書教材の特殊性の解明
④授業実践の観察と分析

さらに、以上のことを踏まえながら、わが国の中等国語科教育を改善するための提言を行うべく、

⑤普通教育と職業教育を連動させる可能性の考究を企図した。

これら①～⑤の目的に関して、具体的には以下の点を明らかにすることを目指した。

①職業学校の制度と役割と結びついた国語科教育の理念の解明
当該の州の教育制度をふまえた上で、職業学校に関わる教育行政資料および専門研究文献に取り組むことにより、職業学校における国語科教育の理念や目標、最終的に育成される言語能力を明らかにする。

②職業教育を標榜する国語科カリキュラムの解明
当該の州の国語科カリキュラムを分析することにより、その領域構造、系統性の特色、職種に応じたヴァリエーションの広がり、獲得が期待されるコンピテンシー具体を明らかにする。

③教科書教材の特殊性の解明
国語科カリキュラムと教科書とを照らし合わせ、職業的言語コンピテンシー獲得のための教材特性を明らかにするとともに、主にギムナジウム向けの普通教育教科書との違いも考察することによって、職業学校向け教科書の特殊性を明らかにする。

④授業実践の観察と分析
パダボルン市職業学校とビーレフェルト市職業コレークにおける国語科教育を訪問調査し、職業学校における国語科教育の実際を観察する。それによって、カリキュラムと実践の対応を具体的に明らかにする。その際、言語・コミュニケーション能力とそれを運用する職業的資質との関わりが、どのように授業場面を構成しているのかが、考察の中心となる。また、国語科担当教諭へのインタビューを通して、実践上の力点や諸問題を明らかにする。

⑤普通教育と職業教育を連動させる可能性の考究
①～④の成果を踏まえ、わが国の特に実業系の高等学校と連携をとりながら、将来の職業生活に結びつく国語科授業の内容、授業方法、コンピテンシー開発に関するモデルを構築する。

３．研究の方法

本研究を遂行するにあたり、当初の予定通り、如上の目的に対応する形で、大きく以下のアプローチを試みた。

（１） 目的①②に対しては、主にノルトライン・ヴェストファーレン州文科省が告示している行政資料及び各種カリキュラムに当たり、、複雑な職業学校機構とそれに位置づく様々な学校種およびそれに伴う多種多様な教育カリキュラムのありようを考究した。

（２） 目的③に対しては、同州で認可されている職業学校用ドイツ語/コミュニケーション科教科書を入手し、職業場面に寄り添った言語コミュニケーションと職業生活に資する文学教育に係る教科書教材の特質を明らかにした。

（３） 目的④に関しては、2019 年にパダボルン市の職業学校を訪問し、主に小売店の従業者を養成するコースの国語科（ドイツ語科）を中心に視察した。また 2023 年には、ヘアフォード市にある AWO 職業学校(コレーク)を訪問し(当初予定のビーレフェルト校は閉鎖)、主に幼稚園教諭を養成するコースで国語（ドイツ語）の授業と並んで、心理学や教育学等の授業を視察することができた。これらの成果は学会発表および論文として未だ準備中である。

４．研究成果

研究の成果については、学会発表ならびに論文等で公表しているものの中から、要約的に以下に示したい。

（１）ドイツ職業学校における国語教育（ドイツ語/コミュニケーション教育）の特質

2000 年の第 1 回 PISA 調査の結果不振（PISA ショック）は、およそこの 20 年間のドイツにおける教育改革の起爆剤となったが、それを背景として、カリキュラム・デザインおよび学力形成に関わって重要なキー概念となってきたのが、「コンピテンシー志向(Kompetenzorientierung)」である。これは、昨今のわが国においても求められる「能力・資質」の育成に通底するものであるが、NRW 州の職業学校でも「コンピテンシー志向」に基づくカリキュラム・デザインがなされている。

同州のドイツ語／コミュニケーション科のカリキュラムは、「要求領域」、「目標規定」、「目標規定のコンピテンシー・カテゴリーへの分類」の 3 項目から構成されているが、「要求状況(Anforderungssituation)」は、従来、教科の「学習領域」と呼ばれていたものであり、その名称変更により、教科内容の区分を意味するのみならず、獲得されるべきコンピテンシーの到達水準が明確化されるのである。コンピテンシーの「要求状況」は次の 7 つから構成されており、

要求状況 1：話すことと傾聴すること
要求状況 2：読むこと―テクストと交流すること
要求状況 3：書くこと
要求状況 4：説明的テクストを理解し、利用する
要求状況 5：虚構テクストを理解し、利用する
要求状況 6：メディアを理解し、利用する
要求状況 7：言語と言語使用を考究する

構造的には、要求状況 1～3 が言語行為の別に応じた基礎基本、要求状況 4～6 はそれらを踏まえながら、細分化された学習対象別のコンピテンシーの発展、要求領域 7 は言語コミュニケーション事象の省察として捉えられる。また、それぞれの基準時間数は就学期間 3 年の合計で示され、職業コースの重点等に応じて、カテゴリー間で柔軟に調整できるものとなっている。

「目標設定」では、各「要求状況」の部分的コンピテンシーが「(ZF)」の連番として、これも達成状態として示されているが、全般的に、各項目は方法的観点を含んでいる点が特徴的である。すなわち、一定のコンピテンシー水準に到達するための目的と方法のセット、場合によっては目的的方法によって目標規定が構成されているのである。また、この「目標規定」は―「要求状況」も同様に―上で確認した 5 つの専門領域に共通するものであるが、（例えば・・・）による例示の異同によって、各専門領域への対応がなされており、この点にカリキュラム編成の多様性が看取される（この点は、次節で考察したい）。

「目標規定のコンピテンシー・カテゴリーへの分類」では、「目標規定」に示された部分的コンピテンシー規定（ZF）が、次の 4 つのコンピテンシー区分に分類されている。

・知識
・技能
・社会的コンピテンシー
・自律性

これらを、わが国の能力・資質に当てはめて考えてみると、「知識」と「技能」は《能力》に該

当し、「社会的コンピテンシー」と「自律性」は《資質》におおよそ相当するように思われる。そのうち、《資質》に関わる「社会的コンピテンシー」と「自律性」に着目してみると、対人コミュニケーションが大きなファクターとなる「要求状況」では、言うまでもなく「社会的コンピテンシー」に比重がかかるのに対して、「自律性」は全ての「要求状況」区分におおむね等しく求められているのが特徴的である。以上のカリキュラム・デザインは、全ての職業学校機構に共通する枠組みである。

（2）ドイツ語/コミュニケーション科教科書に見られる教材特性

当該の教科書に収められている単元および教材を見ると、職業訓練を行う生徒にとっては、目下のコミュニケーション状況を構築するすべが、実践知として構成されるように工夫されている点が明らかであり、換言するなら、コトバによって導かれる職業人としての社会性や自律性を育もうとしていることが鮮明に看取される教育プログラムであるように思われる。このことから、21 世紀のドイツの学校教育の支配的潮流である「コンピテンシー志向」の影響を強く受けた学習コンセプトであるとも言える。

例えば職業生活、とりわけ商取引においては、ある意味のドライさ、割り切り、冷静さ、さらには顧客の満足度の顧慮、建設的な会話を標榜するといった職業人の心得が重要になる。単にコミュニケーションのスキルに止まらず、職場でコミュニケーションを遂行する際に求められる人間性や対人意識を導くものとなっている点、さらには、コミュニケーション課題の（精神的）負荷が、異論やクレーム、評価面接、批判の会話へと、職場での人間関係のいわば試練が緊張感を伴ってどんどん追加的に迫ってくるように構造化されていることも相まって、これらの点に職業人としての個人的資質および社会的資質の育成が色濃く裏打ちされる、このような具体的な教材特性を明らかにした。

このような実用的な言語コミュニケーションと結びつきにくいのか、美的言語としての文学テクストである。本研究では、職業学校における文学テクストの教材特性にも考察を加えた。

まず普通（一般）教育の観点から捉えてみると、文学的にも日常的にも重要な例えば「旅／旅行」をテーマとすることによって、伝統的に言うなら、文学の中で旅に生きる人々に出会い、倣う「世界解明モデル」として文学テクストが用いられ、現代的に言うなら、自分の旅行観を醸成するという点で「自己の構想」に用いられる。

また、分析の観点としての文学言語の特質の幾つかに対する洞察を獲得し、テクストに積極的に働きかける解釈の手法を身につけると同時に、自らの文学創作に活かす、という点で、文学に関わるコンピテンシーを修得するために文学テクストが用いられると言える。

その一方で、職業教育の観点から捉えてみると、“自分にとって旅とは何か？”という追求テーマは、旅行業における“顧客にとって旅とは何か？”という問いに容易に変形可能である。すなわち、教材テクストにおける多様な登場人物との出会いは、多様な顧客との出会いでもあり、それぞれの登場人物/顧客の旅行観や旅行に対するニーズ（モチベーション、トラブル対応）に対する認識を広げることになり、課題において、とりわけ登場人物の旅に対するモチベーションや態度が繰り返して焦点化されている点からも、裏打ちされよう。旅行業において“自分にとって旅とは何か？”に類似するテーマで商品開発、宣伝制作に従事することがあろうし、実際に 例えば、Anastasius の詩「二人の帰宅」はネットの観光サイトに引用されていたりもする。つまり、職業教育にあっては、文学受容者の立場は、職種によって程度の差はあるものの、生産者ないしは提供者の立場と隣り合わせであるような設定を明らかにした。

（4）我が国の国語教育に対する示唆

最後に、我が国の国語教育に対する示唆を列挙してみたい。

a) 資質・能力志向の国語教育のデザイン

現行の学習指導要領を中心に、それぞれの教科で資質・能力（コンピテンシー）の育成がその重要度を増してきている。そこにあって、ドイツ職業学校のカリキュラム設計は非常に示唆的なものとしてまなざしに入ってくる。なぜなら、資質・能力の育成がめざすベクトルは、社会的実践力であり、それを身に付ける学習は常にオーセンティックな場での言語コミュニケーションが問題となるからである。すなわち、職業学校の教科カリキュラムはその目的や必要性から、オーセンティックな職業場面がプリセットされるので、資質・能力志向の国語教育を構想する際には、直接的に参考になるように思われる。しかも、何のために学ぶのか、という問いも明確である。

b) 単線型からセミ複線型カリキュラムのデザイン

本研究を通して痛感したのは、単線型の教育カリキュラムの限界である。多様性が重視される以前から、とりわけ高等学校においては様々なコースが設定されてきているが、やはり、特色あ

る教育コースに対して、固有の国語科（および他教科も）カリキュラムが必要であるように思われる。

c）言語コミュニケーション学習における理論と実践の往還

授業視察を通して印象的だったのは、ドイツ職業学校のドイツ語/コミュニケーション科の授業が、おおむね理論と実践の往還によって成立していた点である。それは具体的な職業場面で執り行うべきコミュニケーションのスキルを練習する局面と、それを裏打ちする理論や規則をもとに省察を行う局面がバランスよく配置されていることを意味する。こういったバランスのよさが、良質な資質・能力の育成につながるように思われる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 土山和久	４．巻 67
２．論文標題 ドイツ職業学校における言語コミュニケーション教育　　―文字言語コミュニケーション教育の教材特性――	５．発行年 2022年
３．雑誌名 教育学研究紀要	６．最初と最後の頁 191－196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 土山和久	４．巻 66
２．論文標題 ドイツ職業学校における文学教育 ―教科書単元の分析を中心に―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 中国四国教育学会編『教育学研究紀要』	６．最初と最後の頁 369-374
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 土山和久、藤井義光、野中拓夫	４．巻 69
２．論文標題 文学的コンピテンシーを育成する授業の開発的研究 ―「文学営為」に見られる行為領域に着目して―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 大阪教育大学紀要	６．最初と最後の頁 75-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 土山和久	４．巻 44
２．論文標題 ドイツの職業学校における国語科（ドイツ語／コミュニケーション科）カリキュラムの特質	５．発行年 2019年
３．雑誌名 大阪教育大学国語教育学会編『国語と教育』	６．最初と最後の頁 32-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 土山和久	4．巻 65
2．論文標題 ドイツ職業学校における国語科教育の実践―職業学校用教科書の特質―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 中国四国教育学会編『教育学研究紀要』	6．最初と最後の頁 191-196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 土山和久
2．発表標題 文学的コンピテンシーを育成する国語科授業の開発研究
3．学会等名 中国四国教育学会
4．発表年 2022年

1．発表者名 土山和久
2．発表標題 ドイツ職業学校における言語コミュニケーション教育　　―文字言語コミュニケーション教育の教材特性―
3．学会等名 中国四国教育学会
4．発表年 2021年

1．発表者名 土山和久
2．発表標題 ドイツ職業学校における文学教育 ―教科書単元の分析を中心に―
3．学会等名 中国四国教育学会
4．発表年 2020年

１．発表者名 土山和久
２．発表標題 ドイツの職業学校における 国語科（ドイツ語／コミュニケーション科）カリキュラムの多様性
３．学会等名 中国四国教育学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 土山和久
２．発表標題 ドイツの職業学校における 国語科（ドイツ語／コミュニケーション科）カリキュラムの多様性
３．学会等名 大阪国語教育研究会第353回例会
４．発表年 2018年

１．発表者名 土山和久
２．発表標題 ドイツの文学教育における 「文学の話し合い(Literarisches Gespraech)」の理論と実践モデル
３．学会等名 大阪国語教育研究会第357回例会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関